

脳梗塞の再梗塞予防のための 情報提供について

ワーファリン内服を例に

10MN22 小林由実（看護技術学）

急性期脳卒中病棟で思うこと

- 内服の自己中断多い。
 - 心房細動（Af）をもっていたり、脳梗塞の既往があるのに、自宅で抗凝固薬、抗血小板薬の内服自己中断してしまい、再梗塞して入院してくる。
- 内服、ちゃんと飲んでいたのに再梗塞してしまい、入院してくるひともいる。



- 抗凝固薬、抗血小板薬飲んでいて、脳出血になって運ばれてくる人もいる。



私の疑問

- (1) 再梗塞予防の薬（抗凝固薬、抗血小板薬等）は、自信を持って飲むことを勧めていい薬なのか？
- (2) そもそも、飲む飲まないは、患者が決めることではないのか？
- (3) 飲んでいいとしたら、どういう情報をどのように提供すれば、継続的に飲んでもらえるのか？

ワーファリンについて

- 一般名：ワルファリンカリウム
- 適用：
 - 血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞、肺梗塞、緩徐に進行する脳血栓症等）の治療および、予防。

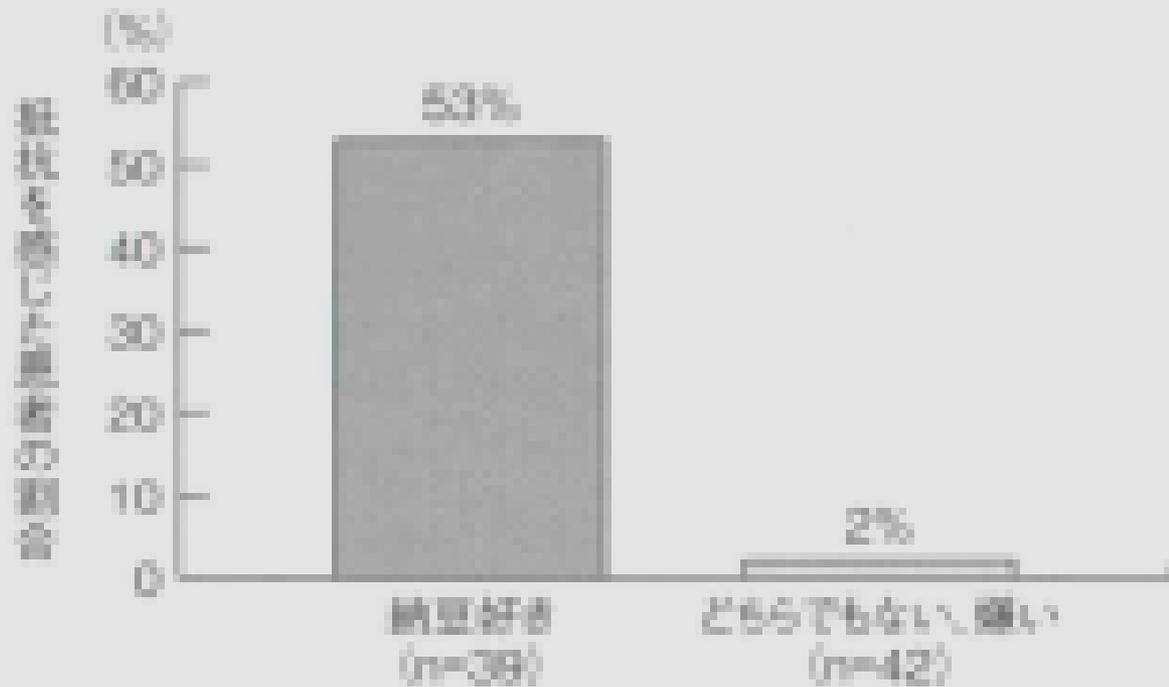
- 作用：ビタミンK作用に拮抗し、肝臓におけるビタミンK依存性血液凝固因子の生合成を抑制して抗凝血および抗血栓効果を発揮する。また、ワルファリンカリウム投与によって、血中に遊離するPIVKA（プロトロンビン前駆体）は、抗凝血作用および血栓形成抑制作用を持つ。
- →内服中は、ビタミンKをよく含む食品を制限される。

ビタミンKをよく含む食品

- 納豆、クロレラ、青汁など . . .



b: 納豆の嗜好性別にみた
“納豆を食べてはいけない”ことへの抵抗感



文献 1) より

再発予防としてのワーファリンの効果²⁾

- RRR(相対的危険率減少): 62%
- NNT(1年間に脳卒中を予防するのに治療が必要な数): 13

ワーファリンの副作用

- ワーファリン（INR 2.5）にした場合の
脳出血の発生率：0.4～1.0%

服薬コンプライアンス³⁾

- 心房細動を持っている（脳梗塞の既往があるとは限らない）患者の服薬状況を調べたところによると、62例中、「完全に服用できている」と答えた人が、54例だった。しかし、残薬を確認してみると、62例中に17例に残薬があり、完全服用率は、72.6%だった。

服用しない理由の例⁴⁾

- 疾患に関する理解が不足しているため必要性を感じていない。
- 記憶や認知の障害があって、飲むことを忘れてしまう。
- 薬の副作用が心配である。
- 薬を買うお金を節約するために自分で減らして飲んでいる. . .

対策の例

- 軽症脳梗塞患者の再発予防に向けたケア提供システムの構築⁵⁾
 - 他職種が協働するクリニカルパスウェイの作成
 - 病棟内での学習環境の整備
 - → 予防啓発のパンフレット、体験記など病棟内で閲覧できるようにする。
 - 脳卒中専門外来での看護相談
 - → 病棟看護師が、外来に出て、セルフケア能力の推移を患者にフィードバックしながら看護相談を行う。必要時、栄養士や薬剤師の指導が得られるように調整している。
 - 脳卒中教室の開催

結果

軽症脳梗塞患者退院後1年以内の再発率比較

	患者数	再入院患者数	再発率(%/年)
ケア提供システム 導入前 2003.10～2004.9	42名	6名	14.2%
ケア提供システム 導入後 2004.10～2005.9	46名	2名	4.3%

研究結果を見て（私見）

- 私は、こういうような継続的かつ、いろいろな情報提供の方法を含んだ関わりの方が、必要だろうと思う。
- 入院中の学習教材、入院後の脳卒中外来の看護相談、セルフヘルプグループ機能を持った脳卒中教室。このようにいくつもの手段があれば、ある患者さんが一つの情報ツールが苦手でも、他のどれか一つはコミットできるだろうとおもわれる。
- パンプだけとか、看護相談だけとか、一つだけの手段しかなければ、その方法に上手に合う患者はいいが、合わなかったら、そのまま置き去りになる。情報にタッチできる方法をいくつか用意しておくということが必要ではないかと考えた。

まとめ

(1) 再梗塞予防の薬（抗凝固薬、抗血小板薬等）は、自信を持って飲むことを勧めていい薬なのか？

→助かる患者の数から考えたら、リスクよりも助かる人の人数が多い、重症化を考えると、yes。ただし、リスクはある。

(2) そもそも、飲む飲まないは、患者が決めることではないのか？

→(1) に対して、患者がどう考えるか、価値観によるかもしれない。でも、どうやって価値観に合わせるのか？

まとめ（その2）

（3）飲んでいいとしたら、どういう情報をどのように提供すれば、継続的に飲んでもらえるのか？

→入院中、退院後、それぞれに、いくつかの情報源を組み合わせて、どれかにコミットできればいい。また、一回ではなく継続したかわりが必要か。

参考文献

- 1) 山下武志(2009). 心房細動患者およびその家族にたいするワルファリン服用に関する意識調査. *Pharma Medica*27(10). pp. 93-100
- 2) 橋本洋一郎 光藤尚 山本文夫ら(2008). 脳梗塞発症予防と再発予防—NNTとRRRのマジック—. *治療学* 42(10). pp. 1149-1152
- 3) 赤澤美保 松岡昌子 横田ひとみ(2000). 心房細動患者の抗塞栓療法に対する認識度の検討. *日病薬誌* 36(5). pp. 623-626
- 4) 安保寛明 武藤教志(2010). コンコーダンス 患者の気持ちに寄り添うためのスキル21. 医学書院. p8
- 5) 野月千春(2007). 軽症脳梗塞患者の再発予防に向けたケア提供システムの構築. *看護*59(5). pp98-103